



子どもたちへのメッセージ集 2005

子どもたちへ



ドーン! ぐらぐらぐら... !!

あの時 とつぜん 部屋がゆれた。でも、ゆれたのは部屋だけじゃなかった。
 家も、マンションも、道も、ビルも、街も、山も、すべてゆれた。
 ふだん、なにげなく使っている 水も 電気も、ガスも、電話さえも
 通じなくなつた。
 夜が明けきて外を見ると、空が煙でもくもくとけむっていた。
 空からは ススが ぼらぼらと 雪のように 降ってきた。
 その夜、消防車、救急車のサイレンが
 すっつとすっつと 鳴っていた。
 忘れないうちに、これは 本当にあったこと。
 これから 起こるかも知れないこと。
 忘れないうちに、たくさんの人々が亡くなったこと。
 生きている命の大切なこと。
 あつた命も、見知らぬ誰かの命も
 大切は、たったひとつの
 命 ということだ。



2005年 / 月 / 日

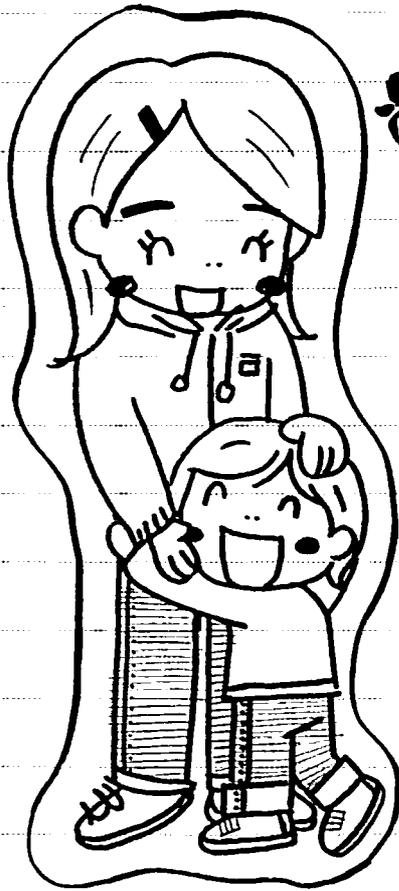
お名前 萩野 恭子 より ※

※ この欄は公開いたしますので、とく名を希望される場合はペンネームまたは無記名で

お願いいたします。

No. 3173

子どもたちへ



♪ エガオイッパイ、キミ
タイタッテイヨ。

※
ヤサシサタクサン、キミ
オコッタッテイインジャナイ。

※
シツカリトテヨツナイデ
オオキナソラミアゲタラ
キモワタシモアスヘノイッポ

※
オオキク、オオキク、フミダシウ... ネ

2005年 1月 31日

お名前 _____ より ※

※ この欄は公開いたしますので、とく名を希望される場合はペンネームまたは無記名で

お願いいたします。

No. 3324

[子どもたちへのメッセージ集 2005・主な内容]

はじめに・子どもたちへのメッセージ運動の概要

子どもたちへのメッセージ34通(表紙・裏表紙含む)

内容に応じて右記のとおりテーマ分類をさせていただいています。
経験や想いをできるだけストレートにお伝えするため、誤字・脱字を除き、メッセージ原文を尊重してそのままの形で掲載しています。
イラスト入り防災カードも数点、ご紹介しています。
提供：大日通周辺地区まちづくりを考える会
イラスト：神戸デザイナー学院

いのちの大切さ	・・・1～7
家族のきずなや災害への備え	・・・8～12
地域での助け合い	・・・13～16
ボランティア	・・・17～18
さまざまな体験	・・・19～27
子どもたちへのエール	・・・28～30

阪神・淡路大震災関連資料

・・・31～32

冊子中のほとんどの写真及び阪神・淡路大震災関連資料は、
震災10年～神戸の記録～(平成16年10月 神戸市広報課発行)によるものです。

はじめに

このメッセージは、阪神・淡路大震災を知らない・よく覚えていない子どもたちに、生命の尊さや震災の教訓を語り継ぐために寄せられたものの一部です。

このメッセージが子どもたちの心に届きますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

子どもたちへのメッセージ運動の概要

<平成16年度 子どもたちへのメッセージ運動>

- テーマ** : 「子どもたちに伝えたい、阪神・淡路大震災に関連する経験や想い」
募集期間 : 平成16年4月7日～平成17年1月31日
応募数 : 557通
展示 : 平成17年3月17日から30日まで、市役所1号館市民ギャラリーに全メッセージを展示しました。
協力校へのお届け : 市内の小中学校(協力校)へ全てのメッセージの原文をお届けします。
冊子への掲載 : 557通のうち、34通のメッセージを掲載した冊子を 神戸市立学校 全校へ各クラス1冊ずつ送付します。
ホームページへの掲載 : メッセージを抜粋して神戸市のホームページへ掲載します。また、全てのメッセージから一文ずつ抜粋して掲載します。
協働実施 : 募集にあたっては、神戸市PTA協議会や神戸市老人クラブ連合会、神戸市立学校園長会など趣旨にご賛同いただいた方々のご協力くださいました。
また、募集から展示まで、中央区の大日通周辺地区まちづくりを考える会のみなさまによる「希望の輪 千羽鶴プロジェクト」とともに実施しました。

<平成17年度 子どもたちへのメッセージ運動>

震災のときに生まれた子どもたちが大人になるまで、毎年、メッセージを募集し、伝えていく予定です。

平成16年度と同じテーマでメッセージを募集しています。(平成18年1月31日締切)

詳細は、神戸市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/t/humanrights/home2.htm>

お問い合わせ先：神戸市保健福祉局人権推進課 322-5235

いのちの大切さ

「忘れないけど、
忘れられない」

その人たちがあの日に亡くな
らなかつたら、かなえられた
夢やうれしい出来事がその人
やその周りの人にいったいい
くつあったでしょうね。

もう死んでしまいたいと
思ったことがありました
でもあの日 遺体安置の
仕事についてから
そんなつまらない考えは
捨てました



阪神・淡路大震災では6433
人の方が亡くなりました。
写真は1.17 希望の灯り
(中央区東遊園地)

つらいとき苦しいとき
頑張る体をきっちり作
っておかなくてはね。

『あなたかわりは
だれもない、
どこにもいない』

『子どもの命を・・・』
その事だけ願った
数分間でした

自分で考えてみて
もらえると
うれしいです

子どもたちへ

「忘れないけど、忘れられない」

1月17日の事は、今でも鮮明に覚えています。

私は、大好きな、大切な お父さんを、倒壊した家の中から
助ける事ができませんでした。

自分が お父さんのかわりに死んでいけば・・・何度も そう思いました。

お父さんは、私達の命を守って、一人、天国へと行ってしまったのです。

私は、生きている。お父さんに生かされている。

お父さんは、決して 死にたくて いってしまっただんじゃない。

もっと もっと 生きたかったのに・・・

そんな お父さんの思いを胸に、私は、命ある限り
生きていきたい。

命があれば、命さえあれば 生きていける。

私は、つらく悲しいあの日の事を、忘れてしまいたい。

でも 忘れては いけない

忘れられない。

小林 知子 より

子どもたちへ

震災の後に生まれたあなたたちへ。

あなたたちは テレビや本などで 阪神淡路大震災で6千人以上の方が亡くなったのを知っているでしょうね。6千人も亡くなったなんて、ひどいことだ、とか、悲しいことだと思ったでしょう。6千人という数字は本当に大きい数字で、それを見たり聞いたりするだけで びっくりしてしまいますね。でも、あなたは その6千人の中の一人一人について 考えた事がありますか？

ある人はあなたと同じ小学生で、大きくなったらサッカー選手になりたいと毎日毎日一生けんめい練習していた男の子でした。

ある人は、あなたのきょうだいと同じ様に 毎日一緒にごはんを食べたり、ときにはケンカをしたり、勉強を教えてもらったりする だれかのお兄ちゃんやお姉ちゃんでした。

ある人は、まだうまくしゃべれなくて、じゃまばかりするけど、抱っこすると、やわらかくていいにおいのする、だれかの弟や妹でした。ある人は、あなたの友達と同じ、学校で、公園で、いろんななやみをうちあげたり、話し合ったりするだれかの親友でした。

またある人は、あなたの事を世界中で一番大切に思ってくれて、ギューっと抱きしめられるととてもあったかいあなたのお父さんやお母さんと同じ、だれかのやさしいお父さんやお母さんでした。

そんな大事な大事な人が6千人も亡くなってしまったのです。

その6千人の人たちには、その人の死を悲しむ、いったい何人の家族や友達がいるのでしょうかね。

また、その人たちがあの日に亡くならなかったら、かなえられた夢やうれしい出来事がその人やその周りの人にいったいいくつあったでしょうね。

想像してみてください。

そして、あなたの、みんなの命を大切に生きて下さい。

増 田 明 子 より

子どもたちへ

平成7年1月17日この日を忘れたいと思っています。でも、忘れることも消し去ることもどうすることも出来ません。あの日まさか、あのような地震がこの神戸に来るなんて、誰が思っていたのでしょうか。

そして、まさか娘がいなくなるなんて考えてもいませんでした。私達は4人家族で酒屋を営んでいます。

震災当時、お店と家とは少しはなれたところにありました。お店は、新しく平成元年に建てたところだったのですが、家は、大変古く昭和初期ぐらいに建てられたかなり古いものでした。また、お店を新しく立て替えるまで住居とお店が一緒になっていたのも、かなりがたが来ていたかもしれません。そのような建物だったのであの地震には耐えることが出来ず、北側の道の方へ投げ出されるように倒れたのです。

あの日、地震を感じて目を覚ましました。「あっ、地震や」とすぐに起き上がって子供たちのところに行こうとしました。娘も息子も敷居を挟んで主人とわたしの向かい側で寝ていました。でも、手が届くぐらい近いところにいる二人に、近づけないぐらいのすごい揺れがやってきてどうしようもありませんでした。また、土壁のにおいが立ち込めてきました。すごく長く続いた揺れがようやく止み、私は頭を上げて見たら、とんでもない光景に目を疑いました。なんとおむかひの家の壁が見えるではありませんか。「え、何が起こったん。」家が潰れて外の景色が見えているのだと気がつくまで、少し時間がかかったように思います。

あわてて、娘と息子を探しました。必死に娘の名前と息子の名前を呼びました。とんでもない大きな声で。主人も必死に叫んでいました。すると息子の声が出て「お母さん」と。でも、娘からの返事はありません。

主人が、大きな梁の下になって大怪我をした娘を見つけ出しました。「何とか助けてあげたい。」と主人と私は娘を車で病院まで連れて行こうとしました。まず、一番近い東神戸病院へ。でも、病院は大変混乱して手のつけようのない状態でした。一緒に同乗してくれていた近くに住んでいた看護婦さんが「私が勤めている市民病院に行きましょう。」と…。主人は必死に車を西へと飛ばします。でも、道は建物が倒れ通れなかったり、車がいっぱいでもなかなか進めなかったり。またガス管が破裂したのかガスくさいところも…。一方通行も逆行しないと進めません。何とか神戸大橋までたどり着いた。でも、渡れない。地震で橋が海に落ちていたのです。それでも何とか渡りたい。目の前に病院はある。娘は虫の息になってきていました。

でも、沈んでいる車が見えて、余儀なくUターン。走っている間に娘は息を引き取りました。

たった10年と11ヶ月26日。

そうです彼女は1月21日が誕生日だったのです。 (つぎのページへ)

生まれた日と荼毘にふした日が一緒になってしまいました。

あの時、一緒に助け出した息子は18歳になりました。娘も生きていれば成人式を2004年に迎えました。

息子は、「一番大事なものは命」といいます。「命がないと何も出来ない。楽しいことも何も出来ん。」楽しいことも苦しいことも生きていればこそ味わうことができる。どんなつらいことでも打ち勝つことが出来ると思います。

私自身は震災の時、2月初めから小学校でボランティアをさせていただきました。当時の校長先生が、手伝わせてほしいという私のわがままを、聞き届けてくださったのです。いろいろなことを手伝いすることで自分自身をすこずつ取り戻していくことが出来ました。その後もPTA、学校開放と携わらせていただいています。あのときの私の周りの人たちが私を立ち直らせて下さったと感謝しています。

“命あってのものだね”といえますね。家族も大切、愛情も大切、大切なものはいっぱいあるかもしれません。でも、なによりも命があつてのことではないでしょうか。つらいとき苦しいとき頑張る体をきっちり作っておかなくてはね。弱い心に負けてしまわないように。

藤本 圭子 より

子どもたちへ

『あなたのかわりはだれもいない，どこにもいない』

1995.1.17. AM5:46

「ドーン」とつき上げられ，一気に大きな揺れと地響きの中ベッドの中でただそれがおさまることを待つしかできませんでした。

「お願い、早く止まって。何？この地震は。こわいよう。」

となりのリビングで「バッシューン。」食器棚が倒れる音。

何分の揺れだったのでしょうか。とても長い時間のように感じました。

雄太は，ママのおなかの中で ママのドキドキしたこわさを共感してくれたいにおなかをけていたね。あなたは，2週間も早く生まれてきたね。ママが余震の恐怖に耐えられなかったの。

この地震で雄太もママと恐怖感を体験したんだよ。

10年，10才になった雄太，元気で病気もけがもなく育ってくれたね。

もし，あなたを今，失ったらパパもママも悲しみに暮れるでしょう。涙も枯れるまで泣き続けるでしょう。だってあなたのかわりはだれにもできないし，どこにもいないのですから。それが命。

だから大切にしないではいけない。だから一生懸命生きていかななくてはならない。たった1つのかわりのない命だから。

雄太ママ より

子どもたちへ

ちょうど、1才の誕生日を過ぎたばかりの息子と私は、私の兄の住む、兵庫区五ノ宮町に初めて泊まりに行きました。初めての家でなかなか寝つきが悪かったものの、明け方までは泣いて起きる事なく、すやすやと寝ていた息子が、突然、びっくりする程の大きな声で泣きだしました。「どうしたんやろ?」と思い、私は抱いてみたりしました。

しばらくすると、すごい音と共に今まで経験した事のない揺れが、やってきました。

「何これ?!」最初はすぐに地震だとは思えませんでした。

無意識のうちに私は息子の上におおいかぶさっていました。が...『こんな事しても、この子の命は守れない』そう思うと、この小さな命1つ守れない自分の非力さが情けなくなりました。その間にも、タンスは倒れ、クーラーは落ち、かべははがれ落ちてきます。

でも私には、おおいかぶさる事しかできませんでした。『子供を育てるって、子供を守っていくって、こんなに恐ろしい、こわい、たいへんな事やったんかあ...』

ゆれがおさまり、はだしで家から飛び出した後、そんな事を思いました。

普通に過ごせば気付かなかった命の尊さが、『この命を守れない...』と思った時、わかりました。

自分が死んでしまうことは、少しも考えませんでした。『子供の命を...』その事だけ願った数分間でした...

そんな思いばかりが、震災と聞くと思い出されます。兄の家は全壊でした。そんな中から皆無事で逃げ出せたのは、キセキです。

皆さんの『命』も尊いものです。大切に 大切に守って欲しいです。

まーくん ママ より

地震後、地下中でガス管にひびが入り、そこからガスがもれて近所の方がガス中毒で亡くなりました。目に見えないところでも、地震の影響がでることを痛感しました。



子どもたちへ

悲しいとき 苦しいとき つらいとき
もう死んでしまいたいと思ったことがありました
でも あの日 遺体安置の仕事についてから
そんなつまらない考えは捨てました
遺体安置とは 病院やつぶれた家で亡くなった人の遺体を
大切に保管する仕事です
遺体は 担架や 雨戸や 玄関の扉に乗せられて
体育館や会館に運ばれてきます
その遺体を大人6~7人でかついで ホールや会議室に並べていきます
パジャマを着たまま眠っているようなおばさん
この人は本当に亡くなられたのだろうか
絢子と同じくらいの赤ちゃんと若いお母さん
二人にずっと語りかけるそのお母さん
だんだん傷みが激しくなって 耳鼻口から黒い血が出たり
最後は焼けて骨粉だけ
法医学の先生と警察官が
何十何百という遺体を事故死かどうか調べていきます
それが終わると棺に入れて 斎場に出発されるまでの間 お預かりします
棺は組み立て 大きなドライアイスは砕いて 一つ一つ用意します
朝も昼も夜も遺体をつかぎました
夜 外に出ると東の空がオレンジ色に燃えていました
凍える手で消えてくれと祈り
ふらつきながら遺体をつかぎ ドライアイスを運びました
検視はまだか 棺はまだか ご遺族のいらだつ声に
ただすいませんと頭を下げました
一瞬で命を奪われ
遺体は「なぜここにいるのか」と私に問いかけているようでした
私には答えられませんでした ただ...
命を大切にしよう 生かされたからには精一杯生きよう
そう誓いました

大野 浩 より

子どもたちへ

早いもので阪神・淡路大震災からもうすぐ10年になります。

この地震で、6千5百人近い方が亡くなり、神戸の人たちは大きな被害を受けました。

私の家はつぶれませんでしたでしたが、家の形が変わるくらいゆさゆさ、ドーンとゆれて、本当に、こわい思いをしました。水道が1か月くらい、ガスは3か月くらい止まりました。

家でお風呂を沸かせなかったのも、西区の親せきや、近所の人から「お風呂に入りにおいで」と言われた時は、とてもうれしかったです。

仕事場に行ってみると、私の机の上には壁ぎわに置いていた重たいキャビネットが落ちていて、机にめりこんでいました。もし仕事中に地震が起きていたら、キャビネットの下敷きになって死んでいたかも…。偶然が重なって、今生きている人、亡くなった方がいるのです。

その年の3月に、神戸文化ホールで慰霊祭があり、私は仕事で参加しました。亡くなられた方の写真を胸に抱え、家族で囲むようにして、人の列がとぎれることなく続けました。私は涙が止まりませんでした。私はずっとこの光景を忘れられないと思います。

一人の命というのは、本当にたくさんのまわりの人たちから大切に思われ、包まれています。家族や友だち、仲間を亡くされた方は、本当に悲しいだろうと思います。

私の母は47才で病気で亡くなったのですが、はじめのころは夜も眠れないくらい悲しくて、つらくて、「もっとこんなことをしてあげればよかった」とかいろいろ考えてばかりでした。でも悲しくて誰にも何も言えなかった。20年たった今は「お母さんの分まで長生きするよ」と思っているし、母が亡くなったということをやっと口に出せるようになっています。でもやっぱり悲しい気持ちはもっています。

今の神戸のまちは、ずいぶんきれいになり、やはりいいまちです。このまちの姿は、神戸の人たちが悲しいことも、うれしいことも、いろんな気持ちを心の中に抱えながら、一人ひとりが毎日を一生けん命に生きてきた姿を写していると思います。すごいことだと思いませんか？

震災のことを思い出すのはつらいことだけど、あなたに伝えたくて、思いきって書いてみました。次の時代は、あなたたちにおまかせするのですから、これから、命のことや、助け合ってこつこつとがんばることのすごさとか、自分で考えてみてもらえとうれしいです。

M・O より

家族のきずなや家庭での災害への備え

あなただけは、とみんなで守った。

あんなつらい思いはしてほしくないけれど、心のどこかで置いておいてほしいと思う母です。

どんなに非常識な話でしょう。でも生まれて100日も生きてこられたことをお祝いしたかったです。

いつ震災がおこるかはわからないのだから荷物の準備、そして心の準備をしておくことが今のわたしたちには一番大切な「心得」だと思います。

あなたはパパとママの間で数cmのラッキーガール、などといっていました



たくさんの建物がこわれ、電気やガス・水道も大きな被害をうけました。写真は給水車に並んでいるところです。

子どもたちへ

あれから10年もたったのですね。

生まれて1月だった誠。幼稚園だった麻里。

大変な災害だったにもかかわらず、家族が全員無事だったことに感謝し涙しながら二人を抱きしめたあの日から...

電気が消え、ガスが止まり、水も出なかったけれど、助けあって生きたよね。(“生きた”本当にその言葉の通り。それ以上の事は何も求めていなかった。)麻里はこわくて外で遊べなくなった時期もあった。10年たった今でも「ペットボトルを持って水をはこんだね。」と覚えているね。地震の時の“ゴーツ”という音、それに似た音がこわいという。その心の痛み、みんなの暖かい心で守ってもらった事をつつんでね。誠は、おなべでわかしたおフロで毎日入っていたんだよ。誰が入っていないくとも、あなただけは、とみんなで守った。その水も、お姉ちゃんをはじめみんなで運んだんだよ。

今は、その時の事を忘れたかのように「勉強しなさい!」と言っているように見えるけど、心の中ではいつも、あなたたち二人を守ってもらえた事に感謝しています。

健康でのびのびと育ってくれることを望んでいます。たくさんの人に感謝して助け合う人になって下さい。心を寄せてあげられる人になって下さい。

夢なかばで空に登った人たちの分まで、夢を追いかけ、つかまえて下さい。胸をはって歩いていく後ろ姿を見るのが、パパとママの夢だから...

佐藤 健一・直子より

子どもたちへ

まるで昨日のことのようで きっと一生忘れることはできません。

初めはただびっくりして どうしていいのやら全くわかりませんでした。幸運なことに家族共々ケガをすることもなく、ただただ余震の大きさに不安な日々でした。

困難はそれから間もなくでした。

生後7ヶ月のあなたは体が弱かったこともあり、ひどいカゼをひいてしまいました。かかりつけの病院はどこも休診。

下痢と嘔吐をくり返すあなたをかかえ、ライフラインである水が出ないため、洗たくはおろかあなたをお風呂に入れることもできず、知人をたずねてバケツの中にポットでわかしたお湯を使い ようやっと、あなたをきれいにした時 情けなくて情けなくて...泣いてしまいました。

あなたのミルクを作るお湯を手に入れるのも本当に大変で... 道路はボコボコ 電車も走っていない所があり、普段なら15分もかからない所がどこも渋滞で1時間近くかかり、何もわからないあなたは車の中で泣き叫び... 一体いつになったら 普通の生活ができるのか生活に追われながら過ごしていました。

それでも、地震で亡くなられた人の多さ、家を失ってしまった方々のことを思うと、きつときつとまだまだ大変な人はたくさんいるのだから... と自分の気持ちをふるい立たせて過ごしました。

職場の中では、水が出なくなった方はほとんどおられず、化粧もできず出勤してから洗面して 心ない上司から「どうしたの？そんな汚い顔して...」と言われ、怒りにふるえたこともあります。

もちろん今となっては笑い話にできるのですから、生きるってということは怒りも涙も、笑顔に変えることができる すばらしいことなのだと思います。

あの時7ヶ月だったあなたが、もう11才になります。早いものですね。

あんなつらい思いはして欲しくはないけれど、こんなこともあったんだと心のどこかで置いておいて欲しいと思う母です。

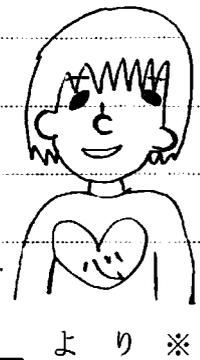
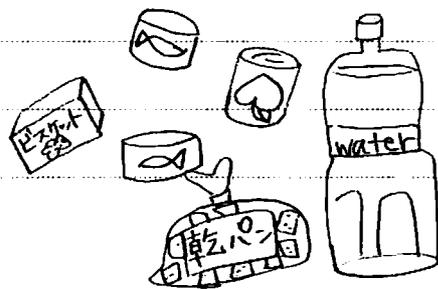
和也の母 より

子どもたちへ



私は阪神・淡路大震災のとき、まだ保育園に通っている6才でした。

当時の状況を詳しくは覚えていないのですが、朝起きたらタンスや食器棚がたおれ、中のものが全て割れていたのは覚えています。私の父が中央区で飲食店を経営していたので心配になり、家族4人で見に行きました。途中の高速道路から海の方の街を見下ろすと(たぶん長田区付近だと思います)家から煙がでていて、それも1つ2つではなくほとんどの家からでした。今でもあの赤い炎が鮮明に記憶に残っています。幸い、店に大きな被害はなかったのですが、TVのニュースでは中央区近辺の被害は大きい方だったと聞いたような覚えがあります。前にも言った通り、私の家への被害は少ない方だったのですが、やはりその後の生活はかわってしまいました。水道が止まってしまったのです。近所に住んでいた祖父の家に行くとタンクに水をもらい、それを節約しながら使用していました。なので、使い終わったコップを洗う水はなく、タオルでふくぐらいのものでした。また、母と共に震災で家をなくしてしまった人々がしばらくの間宿泊まよっていた小学校の体育館にもボランティアに行きました。私はそこで幼いながらも人と人との助け合いを学びました。今、中学3年生になって当時では理解できなかった「たくさんの命の犠牲」や「家族や友人をなくしてしまった人の悲しさ」や「家を一瞬にして失ってしまった人の気持ち」がやっと分かるようになりました。阪神・淡路大震災を「過去のこと」なんて考えずに日々精一杯生きていってほしいと思います。また、いつ震災がおこるかわからないのだから荷物の準備、そして心の準備をしておくことが今の私たちには一番大切な「心得」だと思います。



2004年 12月 6日

お名前

松下 奈央

※ この欄は公開いたしますので、とく名を希望される場合はペンネームまたは無記名で

お願いいたします。

No. 3037

子どもたちへ

康平へ

1996年10月、康平は生まれた時、泣き声をあげませんでした。肺が半分できていなかったのです。

生死の境をさまよって、お医者さんに「もう大丈夫」と言われた時、お母さんは、康平を生かしてくれた全てのものに感謝しました。そんな康平が3ヶ月になってすぐ震災がおこりました。幸いにも康平も家族もけが1つなく、康平はまた命を救われました。

震災前、お店に鯛の塩焼きをたのんでありました。康平の“お食い初め”のお祝いをするためです。震災数日後、予約しておいた日に、お店にむかいました。しかし、お店は震災のために お店を閉めていました。

今から考えると、6000人も亡くなった震災のすぐあとに、おめでたい“鯛”を買いに行くなんて、どんなに非常識な話でしょう。でも、お母さんにとっては、康平の命は、かけがえがなく、大切な物だったのです。生まれて100日も生きてこられた事を、お祝いしたかったのです。

康平は、生まれた時と震災の時、2度も命を救われました。そして、10年間守られ、今、元気に暮らしていますネ。まだまだ小さいあなたに、命の尊さを感じて、と言っても、ちょっと難しいかもしれませぬ、では、1つ覚えておいて下さい。

お母さんは、康平が元気にしていてくれる事だけで うれしいのです。これからの人生の方がずっと長いのですから、いろんな事があるでしょう。そんな時に、康平は守られている。という事を思い出して、1日1日を大切に生きて行って下さいネ。

お母さんより

上田 律子 より

子どもたちへ

1月17日、早朝大地震の後、しずまりかえったとなりでねむっていたあなたは、あと数cm、上にねむっていたら大型テレビの下じきになっている悲げきになっていました。

パパもママも何がおこったのかわからず倒壊をまぬがれた部屋でウロウロして、暖房もきかない寒い部屋に5ヵ月のあなたを眠らしているままでした。その夜、あなたは、40℃を超えるはじめての熱を出し、避なんしていた田舎のおじいちゃんの家で熱で苦しいのにわたしに笑顔を見せる姿に、母としての自分がなさけないやら、かなしいやらで3日間熱が下がらないあなたのよこで、泣いてばかりいる若い母親でした。

数cmという間で神様に助けられたあなたの命を親のむせきにんなたいどで、せめて寒い部屋でオンプをしてじっと抱きしめてあげていたらとはんせいのなみだはとまりませんでした。若いあなたのいのちをたすけられたときママは、あなたを守ってくれた神様にかんしゃしました。

あれから数年あなたはパパとママの間で数cmのラッキーガール、などといっていました。あの時、多くの亡くなった方々、同じ年令のお子さんを亡くされた人になんといえ、申し訳ございません。

あれから10年若いママも若いあなたと、ゆっくり少しずつ大きくなり人に対するおもいやり・人の悲しさや人のパワーをみてきました。

これからも { 神様
まわりの方々に助けて頂いた命、大切に、
丁寧に生きていきましょう。

若いママ より

防災コミュニティマップが配られてきました。

このマップに家族でテーマを決めて

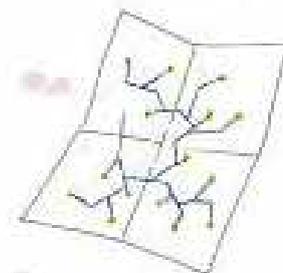
しるしを入れてみたらと思います。

美容院ばかりをさがして色を決めて書いていく。

違う日は酒屋さんばかり書いていく、

コンビニばかり書いていくと、

まちの姿がみえてくると思います。



地域での助け合い

他人事と思わず、いつ何時も、自分にもおきうることとして、心にとめておいてほしいと思います。

人との関わりも薄くなって言われてるけどそんな事なかったんやね。



家を失ったり、家でくらすのが危険な人は小学校などに避難しました。その後、仮設住宅などに仮住まいをしたり、別の場所へ引越しをしなくてはならない人がたくさんいました。

青年達は快く入りにくい隙間を片付けながら、2時間ほどかかって、やっと助け出してくれました。

何度も何度も一生分くらいの“ありがとう”を言い、たくさんの人に助けてもらいました。

むしろ、父のような勇敢な消防士になろうと、その時、自分に夢ができました。

子どもたちへ

地震の時、私の子どもたちは、まだ、5才と1才でした。避難先（地震がおきた当時は宝塚市に住んでいました）の小学校では、たちまち、ミルク、おむつが不足し、困りました。水が出ず、プールの水で、汚れた哺乳びんをゆすいだり、しました。本震がおさまると、余震の続く中、たくさんの人々が急いで、買物をしておこうと、スーパーやコンビニへ詰めかけました。棚の上の商品は、またたく間に、売り切れていきました。全国各地から給水車が到着し、皆、寒い中、列をつくって順番を待ち、水をわけてもらいました。

不安や寒さ、混乱の中でしたが、人を押しのけたり、割り込んだり、自分たちが必要な分以上を持ち去ろうとするような、行為や、光景は、見ませんでした。

身を寄せあって、協力しあう姿のほうが、印象に残っています。

私は、無我夢中で、この10年を過ごしてきましたが、あのような非常事態にどれだけ落ち着いて、行動ができるか、他人のことまで考えられるか、このことは、今でも、私の心に大切なこととして、残っているのです。

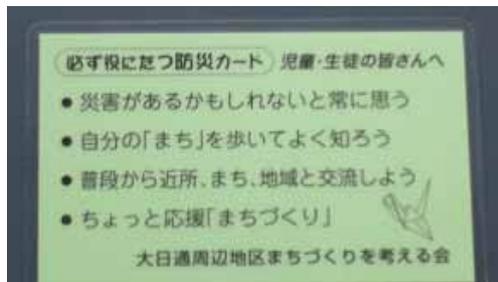
私は、地震で逃げる時、足をけがしてしまい、しばらく、車椅子にも乗って生活しました。幼児2人をかかえて、本当に、大変な時期がありました。そのことを思い出して、新潟の方々の被災のTV報道をみて、義援金を送りました。

この日本では、どこにいても、同じような災害にあう可能性はあります。

地震や災害にあったことがない方々も、他人事と思わず、いつ何時も、自分にもおきうることとして、心にとめておいてほしいと思います。

東灘区 児童の母親（東灘小） より

震災の教訓を防災に生かすため、
地域ではさまざまな取り組みが行われています。



防災カード

(中央区・大日通周辺地区まちづくりを考え
る会作成)



防災運動会

(写真は東灘区・本山第二小学校)

子どもたちへ

結婚してもなかなか子供が授からず、やっと貴方がおなかの中にやってきて
くれて 検査に行ったら喜んだ一週間後に あの大きな地震にあいました。

大きな揺れと物が割れる音の中で 身体を丸くして貴方に「大丈夫やで
大丈夫やで」と声をかけました。それからいろんな方に助けられ守られなが
ら おなかの中で大きくなっていったんよ。

有難いことやね。今は昔みたいに人間味あふれるおつきあいはないし、人
との関わりも薄くなってると言われてるけど そんな事なかったんやね。
見ず知らずの人が「妊婦は冷やしたらあかん、無理したらあかん」ゆうて、
体育館のマット探してきてくれて座らせてくれたり 毛布かけてくれたりし
たよ。胸がいっぱいになったよ。

いっぱい助けて頂いて今日まで生きてこられた事 感謝して生きていこう
ね。もし困っている人が居たら そっと寄りそっていける人になって欲しい
な。

いつも 募金していい？って聞いて少しだけおこづかいから入れているのは
感謝のきもちと 僕も助けられたからって思ってるのかな。

無事に貴方に会えたのも 無事に貴方が産まれてこれたのも たくさんの
人に守られたからやって事 忘れんと これからも 家族仲よくよろしく
ね。

井藤 久美 より

子どもたちへ

僕が、阪神・淡路大震災を経験したのは幼稚園の年長組の時でした。なので、僕は、地震が発生した時のことはあまり覚えていません。しかし、ただ一つものすごく印象に残っていることがあります。それは、僕の父が家族を守らずに他の場所に救助へ行ってしまったということです。

僕の父は消防士です。だから、家族を守りたくても、他の場所へ救助へ行かなければならなかったのです。僕は、そんな父に対して、「自分の父が消防士でなければいいのに。」などと思ったことは一度もありません。

むしろ、父のような勇敢な消防士になろうと、その時、自分に夢ができました。

震災では、失うものがたくさんあります。しかし、逆に得るものもたくさんあります。僕は、震災を通して、いろいろなことを経験し学びました。

このことをわすれずに、僕は夢へ向かって歩いていきたいと思います。

石川 雄太 より

子どもたちへ

家が倒壊して 私は隙間を探してやっとの思いで外へ出られたが、私の主人は寝たきり老人で動くことも出来ず 家の内にいたままでした。どうかして助け出したいと必死の思いだったけれど、どうすることも出来ず、ご近所の方も、みんな家が倒壊していて、外へ出るのがやっとの様子だった。

そんな時 3人連れの若い茶髪の青年が通りかかったので、家の内に年寄が居るので助けてと頼んだ。青年達は快く入りにくい隙間を片付け乍ら、2時間程かかって、やっと助けだしてくれました。

私はこの時は感謝の思いで一杯でした。

有難う、有難うと何べんも云った。

青年の名前も住所も聞かず、只、有難さが一杯でした。

その後主人は3ヶ月間生きましたが、息を引き取りました。

“ 生きうめにならず ”

今でもあの時助けていただいたことが忘れられません。

新長田地区和楽会 より

子どもたちへ

「阪神大震災」私が最も見たり聞いたりしたくない言語です。テレビや新聞などで映像や写真が写し出されると今でも無意識に目をそむけてしまいます。ですから、正直なところ、こういう文章を書く事も気が進まないのですが、そういう思いも伝えなくてはと思い筆をとりました。

当時の記憶は色が付いていません。モノクロです。生後10ヶ月の娘と3才の息子をかかえて住宅の集会所、親せきの家、実家...と、てんてんと続いた避難生活。集会所では、娘がとりあえず泣かない様に気をつかい、オムツを替える場所もそれを洗う場所もなく、神経をすりへらし、離乳食もままなりませんでした。

子供を連れて、無事だった食料品を販売するスーパーの列に並び、やっと順番が来た私に“おたくは子供おるから、ほんまは1人2点までやけど、いるだけもっていったらえーよ”とそっと声を掛けてくれた店の人。それを聞いておこりもせず“そうさしてもらい”と声を掛けてくれたまわりの人。大阪や、もっと遠方から バイクや自転車、徒歩で 紙オムツやベビーフードを持てるだけ持ってかけつけてくれた会社の人や親せき、知り合いの人。ラジオの安否情報をひたすら聞きつづけ、私達の名前がない事を祈り続けてくれた地方の友人。つながらない電話を毎日かけ続けてくれた恩師。大変な事ばかりじゃなかったけど、その記憶のどれもがモノクロです。

何度も何度も一生分ぐらいの“ありがとう”を言い、たくさんの人に助けてもらいました。

家族や近い人に死傷者が出た訳でもない私でも、これ程に重い物をしょいこんだ震災。

最後に自分も被災しながら市民のために走り回って下さった、市の職員や自治体の方に、あの時にはいえなかった“ありがとう”を言いたいです。

藤田 聡美 より

地震の時に一番強く感じたのは、
近くの人とのつながりでした。
日頃から顔がわかり名前がわかるつながりは
大切です。
夏祭り、子ども会祭り、地藏盆、
清掃ボランティアなどに出るようにしています。
合わないタイプの人もありますが、
顔見知りになることは大事です。



ボランティア

小部中学 1 年生だという事でした。新聞やニュースで長田の事を見聞きし、自分たちも何か手伝いたいと、土・日を利用し二人でやって来たのだそうです。

神戸を救ってくれた方々がおられたということもぜひ知っておいて下さい。



日本中、世界中から応援していただきました。(写真は神戸元気村)



神戸に住んでいて被害の少なかった人たちも応援しました。(写真は神戸市立外国語大学)



来てくださった方、物資や手紙を送ってくださった方などいろいろな形での応援でした。

子どもたちへ

阪神淡路大震災で、私の家も被災しましたが、被害が割と小さく、私は近くの小学校に短期間でしたが、せんとく物の集配のお手伝いに行っていました。その時の事です。

ある日、いつもの様に友人と二人で朝出かけて行きますと、かわいらしい少年二人が受付にすわっていました。

私の子供と同年代の子供たちなので話しかけると、小部中学 1 年生だという事でした。

新聞やニュースで長田の事を見聞きし、自分たちも何か手伝いたいと、土・日を利用し二人でやって来たのだそうです。私はすごく感激しました。

二人の少年の心根だけでなく、そういう少年に育てられたご両親に、そしてどんな状態かもわからない様な被災現場に送り出されたお気持ちに頭のさがる思いでした。神戸の復興はこういった大勢の方々の善意と勇気の上に築き上げられて行ったものだと思います。

もうお名前もお顔も忘れてしまいましたが、あの時のすがすがしい思いは忘れられません。今は 2 3 才になっているだろう かの日の二人の少年とご両親に心から感謝致します。

森 朋子 より

子どもたちへ

震災の時、私は二千人以上の方が避難された学校の教員でした。その時出会った1人の若い医師の話をしましょう。

その医師は近所の病院の入院患者さん達に付き添ってやってきました。地震でめちゃくちゃの保健室を整理し、すぐに治療を開始しました。保健室に医師がいることを知って、ケガや病気の方々が次々に訪ねて来られました。保険証もカルテもありません。乏しい薬と器具で文字通り「寝ずの治療」が始まりました。

薬や器具が届き始めましたが、医師は目に見えて憔悴していきました。「休んで下さい」と言いたくても、苦しんでいる多くの人々の前で、その言葉は声になりません。5日め頃でしょうか。ようやく新しい医師が派遣され、若い医師は帰っていかれました。

「医師の家は無事だったのだろうか？」そんな思いで患者さんに尋ねてみると驚くべき答えが返ってきました。神戸の方だと思い込んでいた医師は京都の方だったのです。たまたま神戸の病院を手伝いに来た時に地震がおきたのでした。

見ず知らずの土地で未曾有の大災害にあったら、あなたはどう思いますか？

一刻も早く家に帰りたと思いませんか？どうにかして家に帰れば、そこには普通の暮らしが待っているのです。

たしかに、神戸は神戸に住む神戸を愛する人々が中心となって復興を遂げて来ました。しかし、混乱の最中この医師のように「献身」という言葉を身を持って示し、神戸を救ってくれた人々がおられたということもぜひ知っておいて下さい。

P . S . 「献身」という言葉を一度、辞書で調べてみて下さい。

白井 俊彦 より

さまざまな体験

あれから 十年 一生懸命 生きてきたよ

「家族が一緒にいる」ことの大切さを、
3歳の娘は教えてくれた。

子どもがいたお陰でがんばることができました。

震災で亡くなられた人達の方
まで命をむだにしないで支え
合って生き抜いてください。

今でも、地震があると心臓
が“ドキドキ”します。

現状で何ができるか知
恵を出し合い、みんな
でルール化して、

お母さんの大すきだった、おばちゃんの話をするよ。

生まれてきてくれてありがとう。

静かに10年前の震災、そのずつ
と前の戦災と過去を省みると、よ
く頑張ってきたと思います。

子どもたちへ

銭 湯

ライフラインは途絶えて
何日も 風呂に入れなかった
井戸水を使った銭湯が
二駅先で 商っていると
風が 教えてくれたよ
リュックに 肌着をつめて
歩いた 歩いた
銭湯を取り巻く行列は
とぐろを巻いて
二時間 待った
順番が来て やっと
湯舟に身を沈めた時
わたしは 思わず
里芋になった
土を落として里芋になったよ
脈が ダクダクと動いて
あゝ 生きとる
生きとるなあ と...
あれから 十年
一生懸命 生きてきたよ

神戸市灘区 花木千代子 71才 より



お風呂の順番を並んで待っているところですよ



救助活動を行っているところですよ

子どもたちへ

「片付けなさい」「はやくしなさい」等と気付くと2人の子供たちに小言多いこの頃。時々、「あれから10年か。」と思うと、叱ってばかりの自分を反省し、今の幸せを感謝・感謝と心でつぶやきます。

私が待望の赤ちゃんを授かったのは、結婚して5年目。震災20日前、予定日より、1週間早く元気な男の子が産まれました。この上ない幸せでした。子供好きの主人に我が子を抱かせてあげることができてよかった～という気持ちで一杯でした。ところが、1月17日、北区の実家の一階で寝っていると突然の激しい揺れ。赤ちゃんの上に覆いかぶさり、「やっと子供を授かったのに このまま死んじゃうの？嫌だ！」天国から地獄へ突き落とされた気分でした。

幸い、家族にけががなく、自宅にいる主人ともすぐ電話で無事を伝え合い安心しました。

しかし、公務員である主人は、それから20日間も会社から帰りませんでした。やっと休みをもらえ、赤ちゃんの顔を見に来た時の主人の暗い、疲れきった表情。凄まじい街の様子を見てきたからでしょう。スボンの裾のはね上がった泥の跡が痛々しかった。

テレビでは、変わり果てた神戸が映り、日々余震に怯え、特に、夜中の授乳時に揺れると 生きた心地もせず「もう嫌！」と何度泣いたか。

でも、心強く生きなきゃと思ったのは、守るべき小さい者がいたから。そしてかわいい笑顔で癒やしてくれたから。震災を思い出すと涙が止まらず辛いけれど、これだけは 伝えたいのです。

あなた達が将来、守るべき人ができた時のために、強い人間になってほしいこと。

感情的に叱ることがあっても いつもあなた達を心から大切に思っています。

生まれてきてくれてありがとう。私を強く生かしてくれて ありがとう。

匿名希望 より

子どもたちへ

阪神淡路大震災が発生して早くも10年を迎えました。震災発生4日目より、私の実家がある兵庫県豊岡市に疎開させ、見知らぬ友人と学校生活をした我が家の子供達の成長を見ると10年の長さを感じます。それと同時に、大震災に関する私達の記憶も徐々に薄れていきますので、次世代を担う皆さん方に少しでも私達の経験や思いをお伝えできたらと思い、次の2点を書き留めます。

震災発生当時、私達は神戸市中央区に住んでいました。震度は6～7あり、周辺の家は軒並み1階部分が押し潰され、またマンションなど高層住宅も傾いたり大きな亀裂が入っていました。私の家も激しい揺れのために箆笥や本箱が倒れたり、テレビが台から前面に飛び出したりしましたが、奇跡的に四人とも無傷のまま外に出ることが出来ました。その時に最も役立ったのが、スピーカー内蔵型の携帯ラジオです。外は暗い上、停電していたので状況が全く分かりません。ラジオから流れる臨時ニュースだけが唯一の情報源でした。普段は目立たない存在ですが、非常時に不可欠です。

地震発生から30分位で近所から火の手が上がりました。続いて大きな爆発音が聞こえて、火の手がみるみる大きくなりました。私は徒歩5分の民家に自家用車の駐車場を借りており、火の手を避けるため車を取りに行きましたが、駐車場では地主さんの奥さんが半狂乱となっていました。その時、地主さんが寝たきりであったことに気が付いて家の中に飛び込んだのですが、酸素ボンベを付けた重いベッドは簡単に動きません。周辺の家へ飛び込んで助けを求めましたが、火が近づいている為にみんな自分の事で精一杯です。幸い近くの小学校へ避難しようとするグループが手を貸してくれ、家の扉を壊してベッドを運び出し小学校へお連れしたのですが、普段からどの家に障害者の方が住んでおられるかを知っておく“近所付き合い”の大切さを痛感し、認識不足を恥じ入りました。

午前8時過ぎに勤務先の兵庫保健所に到着、区内の病院の要請に応じて非常用発電に使う灯油を確保したり、倒壊した西市民病院の患者さんを須磨区の国立須磨病院に運ぶ仕事をしていました。

翌朝からは日赤鳥取支部の方とともに避難所の巡回を行いました。トイレに大便が山のように溜まっている状況に驚きました。若いお嬢さんは不潔な場所で用便出来ないと、尿毒症になりかけていた例もありました。そこで保健所の同僚とゴム手袋をつけて大便を掻き出し、消毒液を流すとともに、下水管のマンホールを空け、そこに板を渡して足場とし、テントを設置して仮設トイレを作りました。災害時には医療品や食料の確保がまず重要ですが、同時に排泄物を衛生的に処理するシステムを確保することが大切です。

(つぎのページへ)

現状で何が出来るか知恵を出し合い、みんなでルール化して、長期間の避難生活を協力して過ごせる様に努めることが重要であることを改めて認識しました。

紙面に限りがあり十分にお伝え出来ませんが、皆さんの将来に何か役立てば幸いに思います。

橋本 郁男 より

子どもたちへ

激しい揺れに目が覚めた。体の上には大量の食器が覆いかぶさっていた。一瞬訳が分からなかったが、ただ事ではない。隣の部屋で寝ている夫と娘は無事なのか確かめる為、食器の山を掻き分けた。3歳の娘の上には大きな木の棚が落ちている。幸い打撲だけの様子であった。夫は無事。私達の住んでいたアパートは壁のあちこちが剥がれ、歪んでいる。全壊だった。

大阪から親元の長田に引っ越して来た年の出来事だった。実家の一軒は全焼、一軒は全壊。祖母は、たんすの下敷きになったが、弟が救出、一命を取りとめた。夫の実家である因島、私の勤務先の尼崎への連絡がついたのは、夕方、学校の近くの公衆電話に30分以上並んでの事だった。

私達家族と、両親、弟、妹、祖母の8人は、太田中学校の体育館で避難所生活が始まった。電気もガスも水さえも止まり、普段の生活が送れなくなった。今までの生活が、決してあたり前な事ではなかったのだと気付いた瞬間だった。

火災が残る街中を、全壊した実家から荷物を運び出していた途中、火が消えない崩れた家の下敷きになり助けを呼ぶ人を発見したが、結局救出することが出来なかったと、弟から聞いた。やり場のない怒りを何処にぶつけければいいのだろうか。

夫とバイクで食料を調達する為、須磨から朝霧まで2号線を走った。道路はめくれあがり、車では通れない。信号機も役目を果たさず、警察官が代わりに果たしている。変わり果てた神戸の姿に、ただただ驚愕し、悲しみが心を覆った。

何の情報も入らない避難所での生活。余震と不安の中、最初は、足を伸ばして寝る事も出来なかったのが、日を追うごとに過ごしやすくなり、食事も安定して供給されるようになった。夫は盗難が多発している事を聞き、余震がおさまらない全壊したアパートから須磨の職場へ通った。母校である中学校での生活は、友人2人の死を確認した、悲しい同窓会となった。

当時3歳だった娘は、この避難所が大好きだった。「毎日、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒にいられるから、ずっとここにいたい。」と言っていた。胸が詰まる思いだった。「家族が一緒にいる」ことの大切さを、3歳の娘は教えてくれた。

(つぎのページへ)

風邪が流行る避難所で、1人元気だった娘は、みんなから「この子を見てみると、こっちまで元気になるわ。」と言っていた。垂水のアパートに引越すまでの約1ヶ月間の避難所生活は、娘にとって幸せな時間であった。

しかし現実には、これらの極限の状態での避難所での生活、プライバシーの確保されない生活は、精神状態を追い詰める結果にもなった。一部の人には避難所での人間関係や、家族の関係の難しさを知ったと思う。絆を新たにした家族も多かったと思うが、壊れてしまった家族も多い。家族とは何か、人との関わりで大切な事とは何かを考えさせられる機会にもなった。

今回の震災で、私達は実に多くの方々の思いやりをもらった。物資を送って頂き、炊き出しをして頂いた。全国からの多数のボランティアさん。職場の方々や友人達からの励ましの言葉や手紙。訪問して下さった保健師さんの温かい言葉。新しい生活への希望を持つことができた。

この震災を通して子どもたちへ伝えたい事は、どんな状態にあっても、人への感謝の気持ちと思いやりを忘れないということ。助け合うということ。

震災を経験した私達だからこそ、人の痛みや悲しみ、思いやりの大切さを子どもたちに伝えることが出来ると思う。

吉廣 貞美 より

子どもたちへ

それは、とても寒い朝、
地面が、上下に揺れる。

家が、右左に揺れる。

私のからだも揺れる。

“ あっ地震だ ” と目がさめる。

“ おかあさん、おかあさん ” と2階から子供の声

“ だいじょうぶか ” とおとうさんの心配そうな声
みんなの顔を見て無事を確認する。

子供が、テレビの前で “ おかあさん、たいへん ”

と言うので 私は、テレビの画面を見ると

高速道路が、倒れ。家が、つぶれ。

線路が曲がり。電車が脱線。

道にふとんに寝かされている亡くなった人。

毛布を巻いて家族を捜している人。

私は、テレビの前から一步も動けませんでした。

今でも、地震があると心臓が “ ドキドキ ” します。

もうにどと阪神淡路大震災のような

地震を経験したくは、ないと思います。

匿名希望 より

子どもたちへ

孫娘は震災の時 小学5年生でした。

倒れてきたタンスの下敷きになったのに助かったこと、不思議だと云い、私たちも扉が開いたため偶然助かったと思っていました。

今は遠い昔のことですが、昭和20年、私が19才の夏 日本は終戦となり 学徒動員を解かれて 私も自宅へ戻りました。

戦災で総てを焼失して事務所の2階住いになった我が家には、両親と5人の妹弟が居りました。

ゼロからの大へんな大へんな暮らしが始まりました。戦争と云うのは 多くの方がそんな大へんな暮らしをしています。どこからも誰も助けてくれません。妹弟たちの上に立って 私はひたすら働きました。 働きました。幸い私を理解してくれる人があって29年に結婚はしました。その時も無からの始まりで 相変わらずの追いつけ、追い越せの生活でした。娘が2人生まれました。

この娘たちには立派なタンスを持ってお嫁に行かせたい... いつの間にかそんなゆめが生まれていました。

そして娘たちが結婚するとき ゆめが実現して 立派なタンスを買うことが出来たのです。どん底から追いついた思いだったでしょうか。 ふり返らないで前だけを見て暮らしてきましたが、いやでも老いを感じるこの頃です。

静かに10年前の震災、そのずっと前の戦災と過去を省みると、よく頑張って生きたと思います。その扉を開いて突っぱって孫を救ってくれた大きなタンス、私へのご褒美だったのかもね。

今も、自信を持ちなさい、と私を励ましてくれてます。

77才のおばーちゃん より

家を離れる時にはブレーカーをオフにし、
ガスの元栓も閉めておくことが大事です。
後から起こる火災のこわさは
言葉にできません。



子どもたちへ

あの日私の家には3才5ヶ月と1才1ヶ月の子供がいました。今思ってもあの地震で家族4人誰もケガをせず無事だったのが不思議でなりません。上の子は主人が 下の子は私が それぞれ一緒に寝ていたの1人の子供しか隣にいなかったのになんとか上におおいかぶさって助ける事が出来たのも無事だった1つの要因だったのかもしれない。

家は幸いに無事だったのですが、中は全ての物がこわれ、たおれ移動していました。

外では電車が横転し家がバラバラにくずれおち、電柱がたおれ「ここに人がうまってるから誰か助けてくれー」と言うさげび声が聞こえ本当に地獄絵の様でした。大人も子供も動物までもただぼうぜんとしていました。でもぼうぜんとしていられたのは一瞬でその後からは本当に大変な生活が待っていました。

水を求め食料を求めおしめを求め西へ東へ毎日ベビーカーを押して歩きました。避難所にいる人には物資が届くのに 家が無事だった人には物資は届きませんでした。全てのライフラインは同じ様に止まっているのに何も届かず本当に苦労しました。

でも子供がいたおかげでがんばる事が出来ました。親にとって子供は宝などという言葉で言い表せない程大切な存在なのです。

あの日子供をかばって亡くなった人、助けたくてもどうする事も出来ず子供を亡くしてしまった人、いろいろな人がいます。そんな人達の命はきっと皆に引き継がれていると思います。

どうか自分の命を心を大切にしてください。どうか他人の命を心を大切にしてください。

私も 地震の後に生まれた子供も含め3人の我が子達にあの日の事をあの日の人達の事を伝えていきます。そして命の重さを感じて生きていきます。

中1・小5・小1の子供を持つ母 より

いつも何かあった時のことを考えて
リュックサックに避難食セットを
用意している方がいいと思っています。
特に子どもがいるのでそう思います。



子どもたちへ

私は難聴者で、重度の障害者です。

震災の時は建物は大丈夫でしたが、家の中がメチャメチャになりガス、水道がストップし、水をもらうのに、何時間も並びお風呂も自衛隊のお風呂に入れさせて頂きましたが 耳が全く聞こえないため番号を呼んでいるのがわからず7時間も待ちました。

震災では多くの人達が亡くなっています。生きたまま火事で焼け死んだ人も沢山います。そんな人の事を思うと胸が痛みます。もっと、もっと生きたかったら本当に気の毒でなりません。

人の命は大切なものです。お金では買えない大切なものです。その尊い命をむだにしないで大切に生きて下さい。

これから死にたいと思う程辛い事もあるでしょう。でも生きていたら良い事も沢山あります。

辛い事ばかりではありません。

震災で両親や兄弟を亡くして、1人ぼっちになった人もみんなに支えてもらいながら、元気になって力強く生きています。

障害があっても明るく前向きに生きています。

震災で亡くなられた人達の方まで、命をむだにしないでみんなを支え合って生き抜いて下さい。

尊い命を大切にして下さい。

匿名希望 より

子どもたちへ

お母さんの大すきだった、おばちゃんの話をするよ。

わたしが赤ちゃんのときからかわいがってくれたおばちゃん。岡山にすんでからは、春休みも夏休みも、弟と毎年あそびに行って、おたまじゃくしや魚や虫とりをしたり、じゅず玉でネックレスをつくったり、草木ぞめをしたりして、いっぱいいっぱいあそんだんだ。

わたしたちが大きくなって、おしごとするようになったころ、おばちゃんはまた近くにすむようになったんだよ。こんどは、わたしたちが、ごはんやおかしをもって行って、おちゃをのみながら、おばあちゃんになったおばちゃんのする、むかしばなしをきいたりしてたんだ。

それでもやっぱり、おばちゃんの家にはひみつの宝ものがいっぱいあって、みつけてはワクワクしたんだよ。

そんなとき、あのじしんがおきたんだ。わたしも弟も、お父さんにたすけだされたの。

おばちゃんがすんでいたところは、きえてしまったようにペしゃんこにつぶれていて、よんでもよんでもへんじはなく、3日かけてやっとたすけだされたの。じしんでたおれたかぐの下じきになってなくなっていたの。こおりのように、かたくてつめたかった。ごめんねって、だきしめて ないた。

ほんとうにほんとうにたくさんのなくなった人たちの体がならべられていて、せんそうってこんなだったのかなぁとおもったわ。すぐ近くにいたのに、たすけだせなくてごめんね。っておもっていたとき、おばちゃんがむかしすんでいたお寺のおぼうさんが、「やさしいんじゃね。」っていつてくれたのよ。

そんなことないと思いながらもホッとしたの。1年たっても10年たっても、もっとつらいおもいがのこっている人たちには、同じことを、きっと、もっとつよく言ってくれると思うわ。

じしんなどの天さいは、かみさまにしかわからなくて、おばちゃんやなくなったたくさんの人たちは、あのとき、かみさまが、すぐに天ごくにつれていつてくれたんだと、今はおもっているんだ。

匿名希望 より

子どもたちへのエール

未来をつくる
子どもたちが
力いっぱい、
一生懸命生き
てほしいと思
います。

いつもはとて
もうるさく言
っていると思
います。
でも、“ごめん
ね”とは言いま
せん。

子どものひとつのあいさつが
おとな達の心を明るくしてくれるのです。



「死ね！」
とか「殺す
ぞ！」とか
冗談でも
絶対、言わ
ないで！！

子どもたちへ

「おはよう」「こんにちは」「さようなら」
あなた達の 明るい声を聞いた日は
すばらしいことが やってくるように思えるのです。
子どもの ひとつのあいさつが
おとな達の心を明るくしてくれるのです。

あの 阪神・淡路大震災の時
心も体もつかれ 希望も見えなかった中で
子どもや 孫達の明るい声に
励まされた おとな達が たくさんいたのですよ。

子ども達よ
元気よく あいさつをしようよ。
きっと まわりからも
「おはよう」「こんにちは」「さようなら」と返ってくるでしょう。
みんなで
神戸の町を あいさついっぱいの町に しようよ。

原田クラブ より

子どもたちへ

あなたが10才になり、震災から10年がたちました。

窓も開かなくなり、ドアも開けづらくなった、ボロボロのマンションの部屋の中で、けが一つなく、ぐっすりとねむったままのあなたを今も思い出すことができます。

あの日 多くの人々がなくなり、もっと多くの悲しみが ずっと、ずっと長く続きました。

今もその悲しみが続いている人々もいらっしゃるでしょう。

おかあさんが悲しみの中にいないのは、あなたが 今、元気にしてくれているおかげです。

いつもは、とてもうるさく言っていると思います。でも、“ごめんね”とは言いません。

親が子どもを育てるということは、そういう事だと思っているからです。

ただ、元気でいてくれるあなたに ありがとう と言いたい。

これからもたくさん、わらったり、おこったり、こまったり、したいです。

いつも幸せそうにねている あなたが大好きです。

あの日とかわったのは、“おはよう”と 私に声をかけられるようになった事。そんな毎日が続くことをのぞみます ♡

おかあさん より

子どもたちへ

いつも明るく無邪気な笑顔、笑い声をくれてありがとう。

疲れた時、悲しい時、本当に元気をくれますね。

でも、ひとつだけお願いがあります。

おとうさん、おかあさん、兄弟、姉妹、お友達とけんかをしてしまった時、相手に「死ね！」とか「殺すぞ！」とか冗談でも絶対、言わないで！！

最近 よく耳にする このこわい言葉。

あの阪神大震災で、たくさんの方が亡くなりました。

生きたくても 生きることができなかつた命。

死んでしまったら、もうその人に会えなくなるし、

その人の声だって二度と聞けなくなるんだよ。

わたしたち大人も 気をつけます。

悪い言葉や、悪いことをしないようにします。

そして、あなたたちのように小さくてまだ弱い子どもたちを 守るよ。

あの大きな地震をのりこえて 今も続いている大切な命だものね。

39才のおばちゃん より

子どもたちへ

生まれて10年がたちましたね

これまで病気もせず 元気に育ってくれてありがとう

10年前に 神戸で大きな地震があった時、私達は広島にいました
テレビで神戸の街がこわれて、たくさんの人が死んだりケガをした事を知りました

生きたかったのに死んでしまった人がたくさんいます

お願いが2つあります

ひとつは、震災のことを本を読んだり、人に話を聞いたりして
たくさん知ってほしいこと

もうひとつは、「死ぬ」ってことを考えてほしい

最近 ゲームやテレビから「殺す」「死ぬ」という言葉が聞こえてきます
絶対に人に向かって使わないでほしい。

その言葉は体も心も傷つけ、みんなを悲しい思いにさせます

心がトゲトゲになるのです

地震があって、つらいときも、皆で協力して神戸の街もすっかり

元にもどったように思うけど、やさしい気持ちを持ち続けてほしい

そして、未来をつくる子供たちが力いっぱい、一生懸命生きて

ほしいと思います

弘樹のお母さん より



弘樹の家

**<参考資料> 震災10年～神戸の記録～（平成16年10月 神戸市広報課発行）より抜粋
神戸市の被災状況等**

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

(1) 市民生活への被害

多大な犠牲者

- ・死亡者 4,571人(H12.1.11)
- ・不明 2人
- ・負傷者 14,678人(H12.1.11)
- ・高齢者(60歳以上)が死亡者の約58%
- ・家屋倒壊による死者多数(窒息・圧死が全体の約73%)

高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成7年8月31日現在(死者4319人)での割合
避難

- ・ピーク時：箇所数599箇所(H7.1.26)
避難人数236,899人(H7.1.24)
避難所就寝者数222,127人(H7.1.18)

公共施設の被害

- ・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊
学校教育・社会教育・文化施設の被害
- ・学校園の約85%が被災
- ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊
- ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊

(2) 都市機能の被害

建築物、構造物の被害

- ・全壊 67,421棟、半壊 55,145棟(H7.12.22現在)
- 火災による焼損(確定値)
- ・全焼 6,965棟、半焼 80棟、部分焼 270棟、
ぼや 71棟
- ・延べ焼損面積 819,108㎡
- ・火災件数 175件(震災とほぼ同時に54件発生)

交通ネットワークの寸断

- ・阪神高速道路3号神戸線、同5号湾岸線等の倒壊
- ・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通
- ・鉄道の寸断
- ・海上都市へのアクセスの寸断
港湾施設等の被害
- ・コンテナバース、岸壁等がほとんど全て使用不能
- ・港湾幹線道路の寸断
埋立地の液状化
- ・東部2～4工区、ポートアイランド等で液状化

ライフラインの寸断

- ・電気 市内全域停止
(応急復旧に要した期間 7日間)
- ・電話 約25%停止
(応急復旧に要した期間 15日間)
- ・水道 市内ほぼ全域停止
(応急復旧に要した期間 91日間)
- ・工業用水道 市内全域停止
(応急復旧に要した期間 84日間)
- ・ガス 約80%停止
(応急復旧に要した期間 85日間)
- ・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下(2/7箇所)及び機能停止(1/7箇所)
(応急復旧に要した期間 135日間)
- ・クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止
(応急復旧に要した期間 35日間)

公園

- ・1/3の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害

河川

- ・二級河川 117箇所破損
- ・準用・普通河川 27箇所破損
治山・砂防
- ・緊急復旧を要する箇所 68箇所
社会・産業面の資本ストック全体の損害額(推計値)
- ・約6兆9千億円

(3) 神戸産業の被害

基幹事業所及び製造大手企業

- ・本社等中枢建築物の倒壊
- ・生産ラインの停止
中小企業・地場産業
- ・ケミカルシューズ 約80%が全半壊または全半焼
- ・清酒造 50%以上の企業が全半壊
市場・商店街
- ・旧市街地の商店街の約1/3、市場の約半数が甚大な被害
観光・コンベンション施設
- ・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害
農漁業施設
- ・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害

(4) その他

上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。

(5)旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について

旧避難所 避難所は平成7年8月20日で終了し、待機所を平成9年3月31日まで運営。

仮設住宅 建設戸数 32,346戸(市内29,178戸、市外3,168戸)

撤去状況 全敷地原状復旧済。

災害廃棄物処理(平成10年3月末最終)

実績 解体済 61,392棟(100%)

<参考資料>

希望の輪 千羽鶴プロジェクトとは

心をこめて折り鶴を折っていただくことで「命の尊さ」「震災で学んだ助け合い、ふれあい」を語り継いでいくプロジェクトです。

6433羽の折り鶴で「新たな出発(あらたなたびだち)」のモニュメントを制作。

震災で亡くなられた方のご冥福を祈り、どれだけ多くの方が亡くなられたのかを伝えようと、約21万羽5千羽の折り鶴が寄せられました。

商店会、婦人会、小学校、中学校など地域のメンバーで構成される神戸市中央区の「大日通周辺地区まちづくりを考える会」が主催しました。



発行：神戸市保健福祉局総務部人権推進課

〒650-8570

神戸市中央区加納町6丁目5番1号

078-3222-5235

協力：神戸市教育委員会

平成17年7月発行

広報印刷物登録平成17年度第108号A-1

しあわせ運べるように

作詞・作曲 白井 真



一、地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
 毎日を 大切に 生きてゆこう
 傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
 支え合う心と 明日への 希望を胸に
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように

二、地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
 毎日を 大切に 生きてゆこう
 傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
 やさしい春の光のような 未来を夢み
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように

～ 生命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～

「子どもたちへのメッセージ運動」と「希望の輪 千羽鶴プロジェクト」のとりくみを紹介します。

メッセージと折り鶴を募集



大日六商店街で



しあわせの村「こうべ福祉・健康フェア」会場で



ハーバーランド デュオドーム
「こうべUDフェア」会場で

メッセージの分類



神戸学院大学地域研究センター
のみなさん

子どもたちに生命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、2つのとりくみが平成16年4月にはじまりました。平成17年1月までの募集期間に、557通のメッセージが神戸市に、約21万5千羽の折り鶴が大日通周辺地区まちづくりを考える会(中央区)に寄せられました。

折り鶴の色分けと糸通し



春日野小・蒼合中・地域のみなさん(大日通周辺地区まちづくりを考える会)

展示会場の準備



市民ギャラリー展示オープニング



春日野小学校3年生と蒼合中学校3年生のみなさんが参加してくれました。

折り鶴モニュメント「新たな出発」



メッセージの展示



経験をされた方の、深い想いがありました。



震災の時2歳だった方からもメッセージをいただきました。お母様と。

折り紙作品展の同時開催



サークル「紙ふうせん」のみなさん

子どもたちに届けます



寄せられたメッセージはすべて子どもたちに届けます。

心のこもったメッセージを子どもたちに手渡して下さいますか？
メッセージ原本をうけとってくださる神戸市内の小学校・中学校(協力校)を募集しています。

メッセージを募集中！



来年に向けて、募集しています。